

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成23年7月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要

↻ 前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は5から4に減少。「減少した」業種は4から5に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は11から15に増加。「減少した」業種は11から6に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は3のまま変化なし。「悪化した」業種は11から15に増加。

↻ 前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は4から3に減少。「減少した」業種は8から9に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は4のまま変化なし。「減少した」業種は20から17に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は2から1に減少。「悪化した」業種は25のまま変化なし。

製造業

■パン製造

〔県内全域〕

原料の小麦は、90%以上が輸入で調達しているが、23年度の国内小麦が放射性物質の問題で対応に苦慮している。

■豆腐製造

〔県内全域〕

思ったよりも気温が低く、冷奴等の動向が今一つ伸び悩んだように思う。8月に期待したい。

■製材

〔県内全域〕

免震住宅、耐震住宅への関心が高まると同時に、太陽光発電システムへのニーズも高い。

■印刷

〔県内全域〕

7月の売上高は、東日本大震災後の自粛・節約の影響、官公庁の予算の縮減による発注点数や発注数量の減少を受け、6月の低調な業況よりさらに悪化し全般的に全く振るわない。業種によっては一部に改善の兆しと報道されているが、当業界はこの需給ギャップの影響もあり、安値攻勢からデフレ状態が継続中。県内官・民需共に動きが鈍く夏場の需要が気掛かり。

■電気鍍金

〔千葉〕

震災後、全項目で悪化してきたが、6月に入り幾分持ち直してきた感がある。前年度比較してみる

と、まだまだ景況の回復は不透明。

■鉄工業

〔千葉〕

景況感は、震災以降大きく落ち込んでいたが、徐々に回復しつつ、今日に至っている。足元の動向は、直近に至り大手企業からの受注増を反映し、震災前の水準まで回復している企業もみられるなど、心強い側面もある。

■機械部品製造

〔野田〕

全体に平常の状況に戻り始めているが、被曝等環境影響での景況変化が懸念される。業界動向は、停電復帰のため、生産タイム調整、ライン輪番調整、休日振替等の実施をしている。

■機械部品製造

〔流山〕

電力規制に伴い、輪番休業を実施することになり、平日休業するために受注が減少している可能性がある。（急ぎの仕事）業界動向は、円高過ぎて問題がある。対応にも限界がある。

■機械部品製造

〔柏〕

業界、業種の違いによる景況感に差が出てきている。①震災後の復興へのタイムラグ②為替リスク回避対応による海外移管③国内での生産拠点の再構築、等々の影響が中小企業へ直接プラス面、マイ

ナス面の結果として表れている。

【探石】 【県内全域】

東京都では23年度の港湾整備に前年度比10%増で対応すると言う。我々採石業界にとっては誠に有難い話。また、埋立地などで法改正により建設残土の移動に制限が掛かり、非汚染材の導入が進む傾向があるとの情報もあり有難い。

【土砂採取】 【県内全域】

公共事業投資がなく、骨材需要が減少し各企業は事業運営に苦慮している。

非製造業

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

ガソリン・軽油価格の上昇から輸送コスト増。経費増で採算性低下。
【米穀卸】 震災後需要増加し、品数量とも品薄状態に。
【食肉卸】 放射能汚染により、国内産牛肉の需要価格下落。当面回復のめどなし。
【履物卸】 節電対策等もあり、ブランドサンダルの出荷好調。

【食肉卸売】 【千葉市他】

景況感は悪化。肉牛から放射性物質が検出されたことから、8月より放射性物質の検査が始まる。

【建築材料卸売】 【県内全域】

6・7月と前年より出荷は増加しているが、前年が悪すぎた為、

前々年度よりは低水準。地盤・地震関連補修工事の一部が出てい

が、本格建築工事物件は少ない。災害復旧、復興需要は量的にセメント需要にさして期待できない模様となってきた。セメントメーカーは工場集約化・合理化に軌道修正。

【自動車解体業】 【県内全域】

新車生産の回復とともに、解体車発生台数の回復の兆しが見られるものの円高の進行によりスクラップ価格、輸出品価格の頭が抑えられている状態。放射性物質による解体車輛の汚染が心配される。

【乾物卸売】 【県内全域】

景況感は、前年に比べて低調。中元期等夏場に需要期であるが進物用を中心に低迷している。9月より海苔の販促キャンペーン「手巻総選挙」を実施する予定。ネット上で手巻きの具材の人気投票等を行い、投票結果をTV等メディア発表して、年末の商戦に役立てたい。

【卸売】 【茂原】

消費者の消費意欲が高まらず、売上の上昇が見込めず中小小売店の販売低下がみられる。今後先行き不安がある。

【電気機器小売】 【県内全域】

7月24日のアナログ停波に伴い混雑が予想されたが、平穩に終了した。商品特にテレビ、チューナーが品切れになり、量販店のみが潤った模様。家電店には、テレビの取り付け、チューナーの取り付け依頼が増えたぐらい。

【青果小売】 【千葉市】

中元期に伴い、高級フルーツが伸びた。スイカの市況が高値であったなど、売上を伸ばした模様。

【小売】 【東金】

ボーナス減少等で購買行動が減退傾向になっている。夏のバーゲンセールも今一、盛り上りが無かった。この傾向がいつまで続くのか心配されるところである。その中でも、食品関係は健闘している。

【小売業・サービス】 【柏】

前月は震災の影響からほぼ立ち直り、前年並みに戻した事業所が目につきた。当月では買控えの反動のためか、昨年対比増加に成る店舗も出てきた。報道では高額商品が好調との事であるが当商店会ではそのような傾向は無い。

【建設揚重】 【県内全域】

電力不足補強工事、石油プラン卜定修工事、需要は少し増してき

たがいずれも短期工事。9月以降に期待したい。

【害虫防除】 【県内全域】

震災の影響か？相談のみが増加し、受注には至らない。又、震災以来、害虫の動向が変化している。

【遊覧船】 【鴨川】

やや持ち直しているが、前年比60%前半。

【一般廃棄物処理】 【千葉】

先月に引き続き、地デジ化の影響でテレビの排出量が多かったことにより、景況は好転の結果となった。(先月の2割増し程度)

【建設業】 【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は、6,626百万と前月比1,300百万の増加となった。但し、地域によってばらつきがあり、増加した地域と減少した地域に分かれた。増加地域千葉、北総、海匝、市原。減少地域香取、安房、長生、山武、夷隅。

【貨物運送業】 【野田市】

放射能汚染による農作物、畜産物の出荷制限や風評被害による物流量の低下の懸念がある。

【輸出入業】 【県下全域】

景況の変化として、対前年比は未だに70%台である。